新年のあいさつ

茨城県知事
茨城県統計協会総裁　友末洋治

明けましておめでとう存じます。

ここにすがすがしい昭和31年の初春を迎え、まずもつて皆さんのいやます幸福と繁栄とを心から慶祝申し上げます。顧みますれば、昨年は国勢調査をはじめ、各種の重要な調査が相次いで実施されたにもかかわらず、関係各位のたゆまざる御努力と絶大なる御協力とにより、幾多の困難をよく克服して、ここに輝かしい成果を収めることのできたことは、誠に感謝に堪えないところであります。

申すまでもなく、本年はその所のいかんを問わず、政治行政も財政経済も、はたまた産業文化も、ともに平和と安全、幸福と繁栄とを一途に求めて、分散から集中へ、孤立から協同へ、あるいは不安定不均衡から安定均衡へと、それぞれその方向を大きく転換しようとしております。

私どもの福祉茨城の振興は、この時代の大きな流れにぴつたりと添いながら、あくまでも財政の健全化の基礎を築き上げつつ、新しい機構を人の和によつてしつかりと固めて、これを着実に推し進めたいと存じます。

これがためにはまず、科学的な統計資料を基礎として、あくまでも客観情勢に即応したところの総合的な施策を打ち立てなければならないのでありまして、今回の機構改革によつて、調査企画課の発足をみた所以もまたここにあるのであります。

今後国の委托事業は申すに及ばず、県自体における各種の調査統計事務をさらに充実強化するとともに、統計技術の改善向上とその効率化を計り、調査統計事業をして真に県政の礎石たらしめたいと存じます。

調査統計関係者におかれましては、この大きな使命を十分に認識され、本県における調査統計事業発展のため、一そうの御活躍と御協力とをいただくよう心からお願いして、新年のあいさつといたします。

就任のあいさつ

茨城県調査企画課長
茨城県統計協会副会長　平野逸郎

新年おめでとうございます。

ここに輝しい昭和31年の新春を迎え、皆様の御慶福を心からお喜び申し上げます。

私はこのたび県の機構改革に伴う人事異動によつて、はからずも調査企画課長を拝命するとともに、茨城県統計協会会則の定めるところにより、本協会副会長に就任いたしたことは誠に光栄に存じます。

もともと私は統計関係について全くの素人でありますが、先輩各位のたゆまぬ努力と経験によつて築かれたところの教訓と実績を忠実に守り、皆様の御指導と御べんたつを得て、この重責を果して行きたいと思います。

近年ますます統計の重要性が強調され、調査統計事業は中央、地方を通じて急速に進展し、今や『統計のないところに政治はなく、統計のないところに人間生活はない』といつても過言ではない時代に到達しております。私たちは正しい調査を行うことによつて正しい統計を作り、合理性の高い政治の基礎を築かなければなりません。そのためには今後特に県の新機構の発足に即応し、極力調査統計事業の調整統合を図つて、事務の簡素化と能率化を促進するとともに、調査の結果を県の総合企画面に十充活用させ、統計をして真に県政の礎石たらしめたいと思います。他面調査統計思想の普及に努め、県民一人一人の生活の改善向上のために、大いに利用できる統計資料の整備を計りたいと思います。

ここに関係各位の御支援と御協力を心からお願いするとともに、皆様の御多幸をお祈りして就任のあいさつといたす次第でございます。

離任に際して

前総務部調査課長
前茨城県統計協会副会長
茨城県水戸支庁鉾田支所長　柏原誠

明けましておめでとうございます。

ここに明るい希望に満ちた昭和31年の初春を迎え、皆様にはますます御健勝のことと思います。

昨年末の県における機構改革に伴う人事異動によつて、私ははからずも鉾田支所長へ転出し、調査課長及び茨城県統計協会副会長の職を離れることになりましたので、親しみ深い調査統計関係者の皆様に御あいさつを申し上げます。

顧みれば、昭和29年8月以来誠に短い期間ではありましたが、本県の調査統計事業推進のために、大過なく働くことができましたことは、一に皆様の絶大なる御援助と御協力の賜であり、心から感謝の意を表する次第です。特に統計畑の素人である私としては、調査統計事業の勉強をつづけながら、調査統計制度の民主化と合理化に精魂を傾け、真実にして正確な統計資料の作成のために努力して参りましたが、その業半ばにしてこの職を去ることは誠に残念に思います。

今や本県の調査統計事業はますます拡充強化されて、全国でも有数の統計県にまで発展しましたことは周知のところであります。昨年10月に行われた国勢調査も皆様のたゆまぬ御研究と不眠不休の御努力によつて、他府県に比べ輝しい成果を収めることができたことは、誠に御同慶に堪えません。

今後は調査統計事業も、県における総合企画面と密接な関連性をもつて、ますます重要視されることと思いますが、国や県、市町村の重要施策の樹立推進のため、大いに寄与されることを切望します。

終りに皆様の御活躍と御多幸をお祈りするとともに、今後ともなお一そうの御指導、御べんたつをお願いして私のあいさつといたします。

調査企画課誕生

課員79名の大世帯となる

昨年末県においては大巾な機構改革が行われ、従前の調査課は総合開発課及び生活科学課、科学技術研究所と合体して、新たに知事直属の調査企画課として再発足することになつた。従来調査課の業務は国の委托事業が多く、県自体における調査統計事務がややもすると置去りにされる嫌があつたようである。しかし今後はこれらの調査結果を県の総合企画面へ大いに反映させるとともに、清新の気風を注入し、真に県行政の礎としてますます当課の発展させなければならないと思う。

なおこのたび異動された方々の氏名は次のとおりである。

◎**転出者氏名**(カツコ内は前職名)

鉾田支所長へ	柏原　誠(調査課長)
水戸支庁統計係長へ	中島　武夫(商工調査係長)
地方課へ	長島　鐘一
秘書公聴課へ	芳志戸敬子
出納局へ	貝沼　実

◎**来任者芳名**(カツコ内は前職名)

調査企画課長	平野　逸郎(土木部監理課長)
課長補佐兼企画第一係長	高橋　吉雄(総合開発課長補佐兼第一係長)
同　第二係長	中村　健雄(科学技術研究所総合開発推進班長補佐)
同　第三係長	中沢義三郎(科学技術研究所生活科学班長補佐)
同　生活科学係長	小室　勝一(開拓課長補佐兼管理係長)
商工調査係長	青木　正寿(漁政課漁業調整係長)
調査企画課	小野瀬二郎　岡本　重徳　遠西　光正 粉川　力雄　安達　旭　根本　茂夫 田口　利夫　丹藤　一　川崎　和二 亀谷　一郎　田村　裕三　浅野　辰夫 川上　勝美　小山けい子　園部香代子 三村　恵六

◁ 初の支庁統計係長会議開かる ▷

県では去る1月10日に機構改革後初の支庁統計係長会議を開催して、調査統計業務の一般的運営方針の指示や冬期農業基本調査、毎月勤労統計調査、商工動態調査などの事務打合せを行つた。

昭和30年冬期農業基本調査近づく

先に調査日を延期して来た昭和30年冬期農業基本調査も、いよいよ来月1日を期して県下一斉に実施することになつた。関係各位におかれては何かとお忙しい時節ではありますが、調査の趣旨を十分了承されて、これが調査目的を達成できるように特別の御協力を心から願つています。

◉調査目的

この調査は茨城県農業基本調査規則(昭和28年規則第58号)第2条の規定に基き、冬期農業の実態を調査し行政施策の基礎資料を作成するため、市町村の協力のもとに実施する。

◉調査時期

昭和31年2月1日現在によつて行う。

◉調査事項

1. 世帯員(管理者)氏名
2. 農家人口(世帯員のうち出稼者、農業常雇、農業季節雇)
3. 経営耕地面積
4. 冬作物の作付面積
5. 購入肥料数量
6. 耕うん種類別
7. 冬作休閑地の理由別面積
8. 家畜家禽の飼養頭数
9. 家畜斃死頭数
10. サイロの設備数
11. 畜舎の設備数(牛、馬、豚)

新市町村の横顔

石岡市

1. 沿　革　本市は水戸から常磐線で南へ約40分、ここから鹿島参宮鉄道で鹿島、行方の水郷地帯へ入る関門であり、本県中部における産業、交通上の中心地として最近大きく浮び上つてきた。ここには36代孝徳天皇の御代（約1,100年前）に常陸国の国府（政庁）のあつたところで、天平13年には国分寺が建立され、中世以降の天正18年佐竹氏の所領となるまで、地方政治の拠点となり、歴史上誠に由緒深い土地であります。なお高浜地区は昔水運の要地で、常に船の出入に大変賑つたそうです。

又ここには本県の生んだ市井の楽聖都々一坊扇歌が、長い間住んだことがあり、今でもその墓が国分寺址の墓地内に残つています。扇歌はもとの久慈郡佐竹村に生れたが、その後江戸に出て三味線や俚謡を研究し、俗にいう都々逸を作り出し、一般庶民に大変もてはやされていましたが、たまたま徳川幕府の忌いにふれ江戸追放の身となつて、石岡へきたそうであります。ここにある惣社神社は、江戸時代におまる徳川支藩松平2万石の城址にあるが、これは中古時代の国司や武家、地方住民などから大変尊敬され、今でも毎年9月8,9,10日の3日間附近からの参拝客で物スゴイ人出を呼ぶ由。

戦時中はアルコール工場（現在は通産省所管）や滑空訓練所などがありましたが、去る28年11月16日に県下町村合併のトップを切つて、隣の高浜町と合体し、翌29年2月11日に市制を施行して大いに世人の注目を浴びました。更に同年12月1日には隣の三村、関川村を編入して、今や総面積61.76平方粁、世帯数6,933、人口総数35,690名（男17,155、女18,535）を擁する平和な田園都市として、将来の発展を大いに期待されています（昭和30年10月1日現在）。

2. 産　業　先づ農家戸数2,735、農家人口（常住世帯員）総数16,365、男8,070、女8,295で、耕地面積は水田1,216町、畑1,438町、樹園地274町（以上昭和30年8月1日夏期基本調査）、牛1,568頭、馬144頭、豚962頭、にわとり15,467羽、兎1,123頭、山羊213頭、めん羊26頭、あひる112羽（以上昭和29年12月末冬期基本調査）となつています。特に乳牛は数百頭を有し、今や酪農経営を主体とした農村改良建設計画が着々と進んでいるが、これは合併後における農村振興政策として適切なものであるといえましよう。又特産茨城くりは約134町の集団面積と散在1,711本を有し、毎年約43,000〆の実収をあげている。

更に霞ケ浦を利用する内水面漁業者は団体17、個人31名で、おもにこい、ふな、わかさぎ、うなぎなどの漁獲があるが、ふな釣りの天狗連が遠く東京方面からも押寄せてくる由。

次に商業面を見ると、商店総数711、うち法人の商店及び個人商店で常用労働者を有する事業所が182、事業主、従業者1,055名、販売総額年間約20億7,000万円の多額にのぼる。更に個人商店で常用労働者を有しない事業所は529で、8月中だけの販売総額は約3,600万円をあげています。（昭和29年9月1日商業調査）

又工業面を見ると事業所総数102、従業者数1,550名、製造出荷額は年間約13億1,300万円の多きにのぼり、中で味も食料品工業においては事業所36、製造出荷額約7億8,000万円と全体の約6割を占めています。特に清酒、味噌、醤油、乳製品などが多く、鳩時計や桐材、桐製品、コンクリート製品などとともに、本市の代表的産物となつています。中でも鳩時計や乳製品はくりとともに遠く海外にまで輸出されて、大いに好評を博し、将来を大いに嘱望されております。なお石岡市には、この外にも従業者3人以下の小規模事業所が105もあり、従業者総数234、年間の製造出荷額6,800万円をあげています。

3. 教育文化　ここには小学校9、教員数129、生徒数4,955名（男2,512、女2,433）、中学校5、教員数75、生徒数2,547名（男1,270、女1,277）、高等学校2、教員数68、生徒数1,927名（男1,006、女921）、の学校があります（昭和30年5月1日学校基本調査）。更に幼稚園2、各種学校7があるけれども、ここにある高等理容学校は県下唯一のものであります。又石岡二岡の女子体操は全国でも1、2位を争う高水準に達している。ここには公民館が4ツあつて、青年、婦人団体が主体になり、新生活運動を展開している。たとえば昨年10月以来公民館結婚を提唱して、旧来の慣習の中に大きな波紋を投げ、最近は新しい感覚による冠婚葬祭が多くなつてきたそうである。

（国分寺址にある扇歌堂）

4. 財　政

昭和30年度歳入歳出予算（当初）　（単位千円）

歳入	税収入	地方交付税	分担金及び負担金	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄附金	繰越金	市債	その他	合計
	82,724	14,000	960	1,151	21,604	1,872	2,991	631	5,525	604	132,062

歳出	議会費	役所費	警察消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	合計
	2,235	34,022	6,676	13,297	22,937	18,203	3,027	6,595	1,021	231	590	2,182	21,046	132,062